第2項　紀の川の治水史

紀の川の治水史

701 続日本紀に紀伊ノ国の被害記録

1618 徳川頼宣　初代紀州藩主となる

（紀の川の本格的な治水事業開始）

柳堤・干間堤・松原堤

1705 徳川吉宗　五代紀州藩主となる

紀州流治水工法により治水対策

1868 明治時代

1917 大正6年10月出水

紀の川改修計画（国直轄事業開始）

～1800

1900

1923

1950 工事区間延長に伴う紀の川改修計画変更

1953 昭和28年9月13号台風襲来

1959 昭和34年9月15号台風襲来

紀の川修正総体計画

1960

1965 昭和40年9月24号台風

1965 紀の川水系工事実施基本計画

（新河川法の施行）

1972 昭和47年9月20号台風

1974 紀の川水系工事実施基本計画の改定

1994 紀の川水系工事実施基本計画の部分改定

歴史に残る主な災害

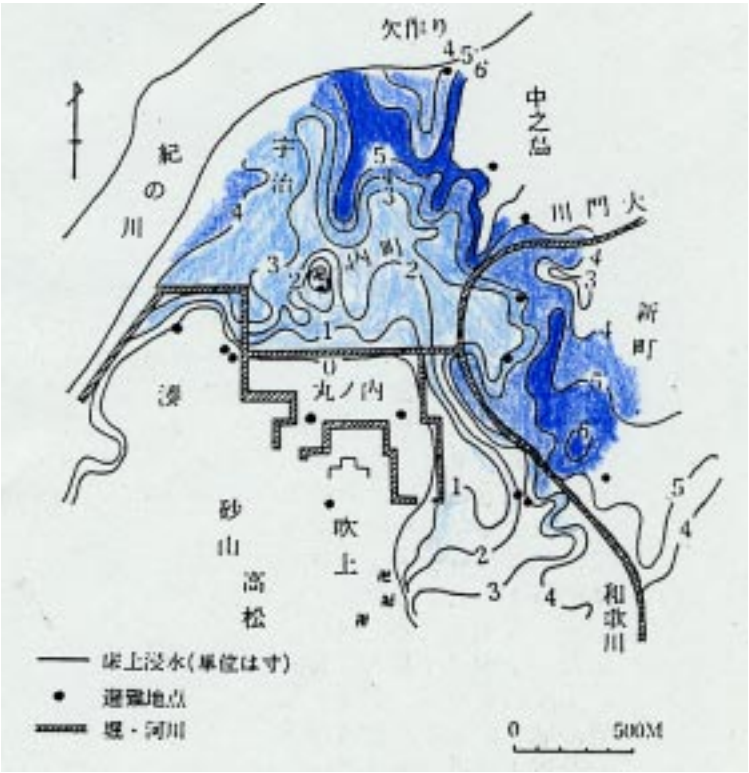
701年（大宝元年８月）
　続日本紀に紀伊ノ国の被害について記録。

1756年（宝暦６年10月）
　紀の川が増水し、城下の人家の浸水が5.6尺（約1.7m）にも達した。

1889年（明治22年８月）
　東は那賀地方、南は紀三井寺まで高地を残してほとんどの地域が浸水。
　和歌山県下の被害は死者1,247人、流出家屋3,675戸、浸水家屋33,081戸と史上空前の大洪水であった。(右図)

1912年（大正元年９月）
　台風により和歌山県域で死者17名、全潰家屋84戸の被害。

1917年（大正6年10月）
　船戸水位は、6.06mにも達した。



明治22年8月洪水の浸水実績図

1,900年以前の治水事業

徳川時代の治水事業(1)

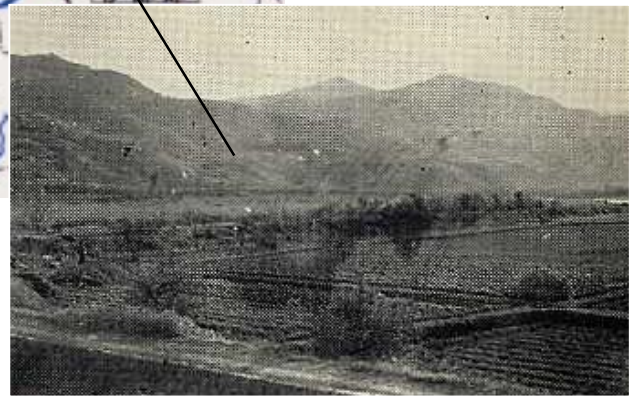
紀の川の治水事業が本格的に着手～徳川時代以降

徳川時代の治水工事

初代藩主　頼宣時代の築堤

・**柳堤**（現和歌山市）
嘉家作付近から地蔵の辻付近まで洪水防御、城郭防衛を兼ね新堤を築造。堤防両側に柳が植えてあったことから命名。

・**現在の柳堤**
柳に代わり、桜が植えられている。



・**千間堤**（現かつらぎ町）
天端幅3m、長さ350mにわたって築堤

1,900年以前の治水事業

徳川時代の治水事業(2)

- **松原堤**（現和歌山市）
  堤防の両側に松並木を植え、洪水の流入を防いだと伝えられている。

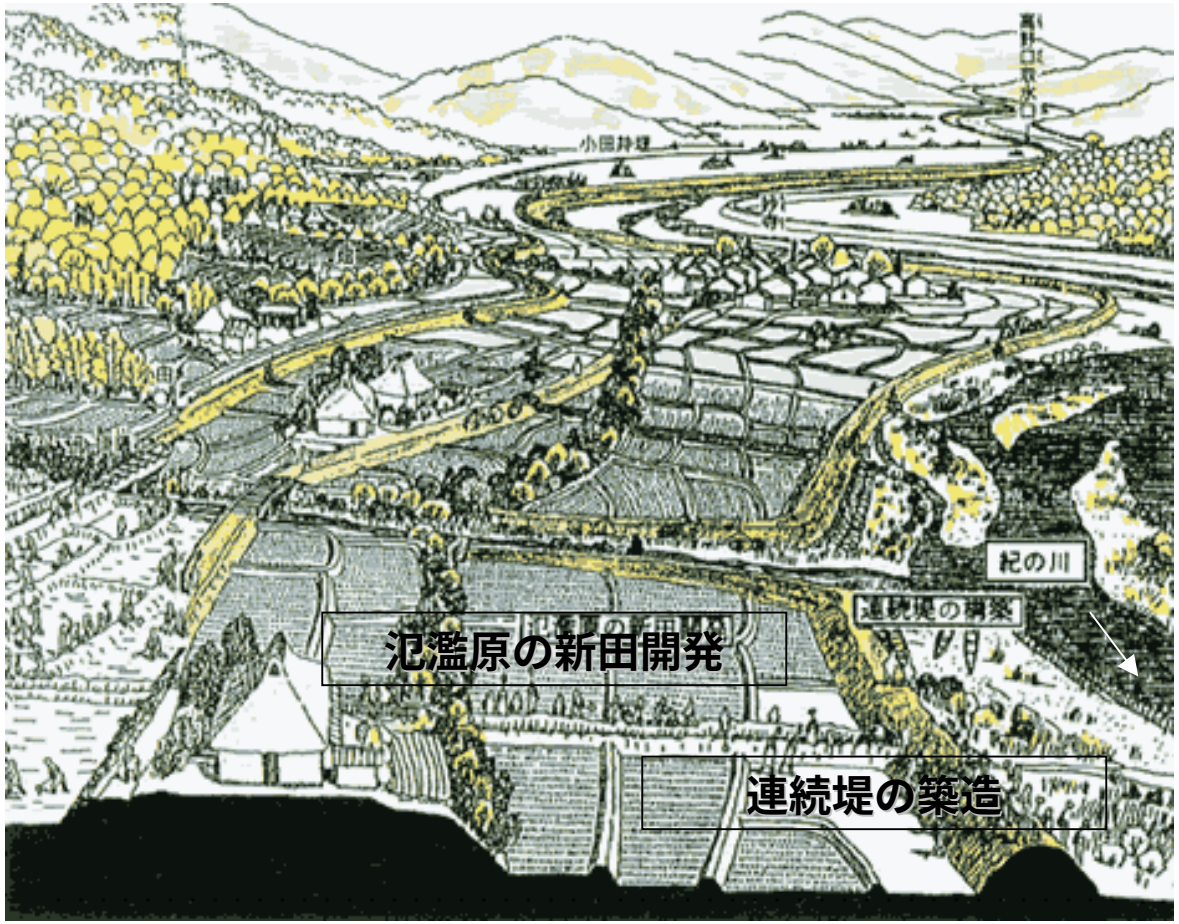
- **現在の松原堤跡**

1,900年以前の治水事業

徳川時代の治水事業(3)

紀州流治水工法

紀州流治水工法とは、連続した堤防を直線的に築造し、弯曲部や氾濫原を水田として開拓する工法である。この工法は、紀州藩当時５代城主であった徳川吉宗時代に盛んに行われ、井沢弥惣兵衛や大畑才蔵などが活躍しました。この工法は、のちに吉宗が８代将軍になり全国に広まりました。



出典：「図説日本の歴史30
和歌山県の歴史」より